



心學道孔話

七篇上

十九

9
3895
19



門 9
號 3895
卷 19

心學道 此語七編卷之上



藝陽 奧田壽太講稿

東武 平野檇翁園書

孟子曰萬物皆備於我矣反身而誠樂
莫大焉強恕而行求仁莫近焉

此の語ハ敬誰も法ぞんド此孟夫子の心此とばて
世界中よありとありゆり抱ハ我一人の身よちん
と依りそつてありゆり中を美物皆依於我と
あり此人間の心とゆりそのハ具衆理而應之と
ありて一切の理とそあへてありそのハ修行之

心學道 活 卷二

七編 一

早稲田大學圖書館
昭和27.6.16 樊
藏 書

たして人であるれば知事ませせん。上の天子様も
 下の穰多も念ふまで人の形を生れておこそ
 中らげともなふありがふ中と思ひ給はあぬ。
 なせあれ一人一個の小天地と申て丸で天地は
 ひあがさけは三ふ世界の志本は心々るわ
 生きたるは神代の巻の天照皇太神を生
 あふといふは伊弉諾伊弉册の二子にや川を
 うみかきしよふこやるやありまはが。うむとな
 ふと産むふではござりません。つら神様もや
 こて海や川をうむるい出まぬ若うむと申は神の

神代の言ふで今世の中を振り定るとりあて
 葉にあては熱しきりたるを能うんと申すも
 熱しきりたる。秋の丸を子に申すは
 は日天子様が東の方へ出あらふといふ根
 申す子の時と申す。それと日天子様が東に下
 方へ出たゆふまで交が日の出ふと申す。先
 ゆへうくしきりたるで丑の時といひ。ふせつ
 あると日天子様が辰しきりたる。あさるや
 けらやうふりけり戸びりきと略して寅と
 卯の。それう六つふあはと日天子様がうま

心學道言

卷上

十卷

二

ことふるで知とりよ。もよ五の時よなると日天子極が
 心うつ川をさつふるゆを辰とやとよの。それう
 だんくとゆうあさんてうつるといふ縁で已そ
 のあこのさふく日天子極が天の志中政のよよ清む
 あされとやと午といひまが一日の空る不別極りれ
 義でうむといふゆの轉えでうまとりこのでござ
 りまゆらま一採といふ言まの本でゆざりまゆ
 於て日幸の極むうは文字といふよのいあは
 一支のちや歎のうさちと切りてフチヤラよして。
 極是公も我日の本の天地と以て書藉とる百相

をりて文字と作らまゆと。そいでの
 きちつとゆとらむと中まゆら山とらむ川城
 うむといふはけい山奥別この山うらこらうい出羽
 は川大和は海紀別あそく此定めあされとら
 を山とらと川とらむとゆこので此なうまゆ天
 地のひつとといふ。道あらとらと一と半國の
 案さたまとも一玉のまを定めらまぬの伊集儀
 伊集儀の二方の思百といひて天の卜れ君らもの
 をうまざらんやと作らまて色くと尋ひてらん
 小玉のあらうまはあれ日天子と完善のまれ

とおほしめし—たまば天照太神を照らすとあされ
 くのの。そそいよ我ふととありとしんどもかくいしふ
 うべおふよ止先おあつる海にうけしつふて。成程日天子
 孫あはれやうふらほしくこせり也—よまよりつて
 清むあつるものなごめまのるゆいおれぬとらづ
 ぞ。そこでおの助けふ成とのと。ま一人定めまて
 いののと思ふて月讀の書を清うとあされこのの
 お月さぬ三敷月よおうみあされこのが煙子書られ
 神の夜疾まう三敷たてども足あそらげしつふて
 釋尊ゆいしつす船つふて楠の本れ船へ乗て風れ

まふし海—流—たてしつふてごちしつ—たうりとも
 流まよそつふて海—風お任せ流—まのよあされ
 くとゆれくれみい傳のあるゆちやが。あまうもふ
 ありますうらやませぬ是等のゆい。むし—れ
 事このとおふが今の世でもとつたり林おまよは
 依てありまは。是は現在まかちちを定めてその
 通りと下よまよそのゆい今の世でも大内はびをり
 でいなりまは今上皇帝八日天子孫でそのもふを
 さす天照皇太神孫でいざりまます。尚大内所孫
 が清辨任あらせらまて時清欽と天子孫—とさせ

らまゝの時今太神宮へ奉納の和身一首を以て
まゝして

うまもまもむとぶの神は結びまゝ神の
あはれかゝらみつまあん

と遊ばされても下は前左大臣征夷大將軍兼徳川
武蔵守源家齊と遊ばされても下は
関白の月よこれ等て冥白権の一人を以て清徳家
方の中より心を人清徳の心持を奉されしかるを
撰んで心を奉されます是は出家の内での心ざり
ません。それゆへ随神を以て連を奉されます是は

天子権と同く天子権の心持神と清の字を
解し心持の心を以て。冥白権の心持は
あさる。夜分清はこれの心持を以て大納言の官を清
持奉されと云ふ。松明を燈してちんところを以て
持て心持を致し清雲は心を以て持て心持の外に
その心持を以てあはれぬ時の清徳まで大納言が
心持奉されます。天子権清徳の心持も
冥白権の心持も天子の御位を以て心持を奉。又心持
あさるも関白権の心持もあさるも心持を以て
あされて仙洞権の心持もあさるも心持を以て

佛^{かみ}極^{げつ}い^いが^がー^とも^も私^{わが}の^の思^し慮^りを^を別^{べつ}と^とし^しよ^よも^もの^のい^い出^で一^一
 ふ^ふさ^さし^しぬ^ぬ中^{ちゆう}庸^{ゆう}も^も舜^{しゆん}夫^ふ大^{たい}知^ち我^が舜^{しゆん}好^{こう}同^{どう}而^に察^{さつ}通^{つう}
 言^{げん}と^とあ^ある^る。論^{ろん}語^ごよ^よも^も子^し入^に大^{たい}廟^{めう}每^{まい}事^じ問^{もん}於^お於^おこ^こい^いし
 孟^{めい}子^しれ^れ禹^う王^{わう}水^{すい}と^と治^ち先^{せん}か^かよ^よも^もの^のい^いも^もあ^あら^らふ^ふて^てあ
 ら^られ^れと^とも^もれ^れ馬^ばの^の出^し来^{らい}ぬ^ぬ月^{げつ}を^を嘗^{じやう}と^と極^{げつ}て^て居^いて^て
 は^はあ^あの^のこ^ころ^ろと^とん^んて^て後^{のち}よ^よら^らつ^つて^てあ^あら^らし^しら^らし^しの^の牛^{ぎゆう}
 こ^この^のい^いれ^れが^があ^あ来^{らい}て^て鼻^びぐ^ぐと^と他^たと^との^の凡^{ぼん}て^て人^{にん}の^の脚^{かく}
 起^{おこ}る^るの^のと^と夜^や寐^{まい}休^{きゆう}まで^{まで}動^{うご}か^から^らず^ず働^{はたら}か^から^らず^ず居^いる^る
 歩^{あゆ}行^{かう}たり^りと^とも^もる^るゆ^ゆつ^つて^ても^も我^{わが}が^がす^すた^たと^とい^いふ^ふは^は
 あ^あの^の向^{むか}ふ^ふの^のも^もの^のが^が動^{うご}か^かせ^せて^てく^くま^まる^るの^の一^{いっ}切^{せつ}万^{ばん}物^{ぶつ}の^の

働^{はたら}か^かさ^さい^いま^まつ^つば^ばり^りい^い身^みよ^よは^はつ^つて^て心^{しん}を^をな^なら^らす^す。ケ^け極^{げつ}小^{せう}
 一^{いっ}切^{せつ}万^{ばん}物^{ぶつ}の^のと^とも^もら^らた^た我^{わが}身^みよ^よと^とも^もな^なら^らず^ずと^とあ^ある^る也^{なり}。こ^この^の
 身^みと^とし^しよ^よも^もの^のい^い極^{げつ}も^もく^くふ^ふ思^し慮^りも^も妙^{めう}も^も廣^{かう}大^{たい}極^{げつ}
 妙^{めう}ふ^ふの^の信^{しん}も^も角^{かく}も^もこ^この^のい^いれ^れぬ^ぬ有^あら^らず^ずも^もの^のと^と反^{はん}
 於^お身^み而^に徹^{てつ}あ^あら^らば^ば神^{しん}と^とし^しよ^よも^も佛^{ぶつ}と^とし^しよ^よも^も皆^{みな}こ^この^の身^み
 の^の中^{ちゆう}我^{わが}身^みと^と知^ちて^て極^{げつ}ら^らず^ずこ^この^の意^いを^を極^{げつ}と^と我^{わが}身^みに^に
 契^{けい}と^とし^しよ^よも^もと^と知^ちて^て外^{がい}よ^よら^らず^ずん^んが^が結^{けつ}搦^{だつ}あり^りの^のて^ても
 あ^あの^のこ^この^の身^みの^のあ^あら^らし^しこ^この^の意^いを^をな^なら^らす^すて^ては^はあ^あの^の達^{たつ}磨^ま
 大師^{だいし}も^も捨^せ世^{せい}塵^{ちん}而^に欲^{よく}求^{きゆう}道^{だう}者^{しや}死^し如^に求^{きゆう}免^{めん}角^{かく}と^とあ^あら^らず^ず
 此^こ身^みと^と捨^せて^て外^{がい}と^と身^みら^らい^いう^うさ^さの^の角^{かく}と^と身^みら^らい^いう^う

心學述言 卷一 十 七

心のさう志をもえけりまはせぬ。此つ身が世に世
 せうんこ世身をかしくも隔はあはれ怒さるふ心と
 いて人のころろをおひる。おひいやりと讀て字も
 心の如しと書ふと文字で我身とを本よして。我
 ころろは使ひとおひゆるは人よ絶し。我身よ怒い
 とおひゆる人よも遠急する。人むらと志やあは
 りあはれ通ふりころろやうみするを怒と怒くして今日
 とけふて世のは仁の逆道

身とつて人のいことさぞ知るまじりう命の
 おしれたものと知るはや

人が己に對して我れをいむけるは自絶と後が
 たち深切めしてられると怒し思ふ他人より
 愛を押しとらると及ぶかあはれ。何事でもこの
 身を本よして人よあはれの時なる違ひあは
 らうの我う本れ心よ味ひしあはれよう人よ
 本はあは
 こころ先生が道身もゆるまじりうと我れ本
 けあはるんとおひゆる先自かう親よ本
 まるがら且那が家来よ忠をせむあはれ自ぶんの
 君(忠)とすすやうみするがら。海濱の能く

たり花鬘の氣で身よえ及てん家と我身も
 同ぢやうふ年いよつて居る。それぢあひしやう
 こいふ事が大なる。教の事おとるふも孝あはれと
 いふ書物いふのつんでよひその親のつんと死ら
 ぬあらず小言のこゝ。列女傳の甘房のつんとその
 子中をさうんはこ喰ひの仲人。孟子は君の臣と
 する中子足のごとくあれは臣の君とすは事
 後心の如く君の臣とつんとや土芥の如くあれは
 臣の君とつんとや寇讎の如くといひらまてい君
 へのおしへ論詔ふ君。君たらずといひらまはれぬ

臣たらずはあまのびこいふ世の中れ家来(の
 戒め。清高れとすよも家来を懐しむさうといふ
 は家来たるものい身をおさつてこいぬがういそれ
 かりう主人ある軍の奉公は務とあはれべら事と
 いふ時い主人と身とあまんで守ぬやうよと家来が
 うい。寇敵身務を身具員あら通の曲やうふ
 ぬ私欲私心とをこつとつんと三千世界がれで我
 事の監住禪師がわいやわいやと忍りぬやうよ今い
 世界が我もの志やといふと通りけ五又の小さか
 かりだがあまよ大きふ世界がせまうあうまはれ家

のさつどりあくあつとあが聖人佛はかたふ
 括らきて生涯くらしみ通しふ若しむが小人
 凡事は我のあひよつておひしういともふしが
 中書おふある時一旬備ふのこむけ名らあはは
 居りませんがに五十年も前の中。志やが肥後の
 徳本の城を細川紙中ち役のいあふのう一足怪
 体のゆれでむてかうんもの持ふ美病の人あれた
 西恵西路よせられていあふの長あう位でありま
 と申し大工ふど頼むほごのりもあふは自分

細工佛壇を濁の方へ掲げ張付杯をうして
 あふとまあしとゆへ先祖支親の位牌ちとび
 並べてつんで居る。甘房も例のうらふあふ
 たぐらまては折心の法奉る極があふ何年紙表
 具でも本像でもうらふおとちてまふもの
 にはいなりませんうとつゆいふあふあふ
 じやあし席小窓てあうとちて武州柳京をむる
 小右道具をよ誠ふあうびとに釈迦さぬの本像と
 えうけさあはあもあふあてあてあつて甘房も
 えせる甘房もうらうらんで佛壇へ入るまうてあ

かなり驚きことぞふ仲づるのたましくのら驚きことよ
 由(よ)そふを尋(たづ)ねて終(や)げんしくとえを尋(たづ)ねて
 てそふしく驚(おど)るの肉(こころ)が知(し)るまじしと由(よ)りてえ
 まはま本(ほん)底(ぞ)二(に)目(め)の何(なに)所(ところ)で何(なに)をの何(なに)を流(なが)し
 肉(こころ)通(と)るぞでつてんまじし由(よ)る知(し)るまじしと由(よ)りてえ
 家(いえ)をえんまじし由(よ)る表(おもて)後(うしろ)居(い)て間(ま)口(くち)も廣(ひろ)く家(いえ)地(ぢ)も
 急(いそ)流(なが)しつゝあも大家(だい)家のやうすけ位(くらい)の肉(こころ)であせこの
 佛(ほとけ)像(ざう)とらうつゝこののであらふと不(ふ)義(ぎ)よ思(おも)ひがうら
 搭(た)子の戸(と)を切(き)らうと明(あ)けて因(い)遠(とほ)入(い)てんまじし由(よ)る
 人(ひと)一人(ひとり)も病(び)ぬぬ葉(は)肉(こころ)とれども人(ひと)々(々)病(び)ぬぬ由(よ)る

まはばとと明(あ)る店(たな)でもあは撞(つ)ね彼(かれ)是(これ)とらう肉(こころ)奥(おく)の方(かた)
 のら出(で)てある人(ひと)があらうらふんまはは八十(はち)むぢりの時(とき)
 阿(あ)まぬが糸(いと)あうてそ中(なか)らうらふとつゝてふ重(しん)ぬのやうに
 そあで中(なか)とそあはイヤ私(わが)ハハ私(わが)ハハの老(お)らりとらう由(よ)る
 中(なか)とらふるやうあて糸(いと)ありまじしとそあぞはらうらうそあ
 清(きよ)目(め)まをらうそあはなうますとやたらむぢののら
 るは主人(しゅじん)とやそののらそあはあうありまじしとら
 どの私(わが)獨(ひとり)り結(むす)てまじしとらまははとらふ風(ふう)呂(ろ)呂(ろ)を
 明(あ)けて佛(ほとけ)像(ざう)をえ出(で)して終(や)げば是(これ)とらふお由(よ)りあり
 やとやまのいそ。むぢのら下(した)目(め)んてはらうと涙(なみだ)を流(なが)

中せ扱又そ佛像よははてはるのあされん法
 強えちどふふるでござりまはんとりた様より
 金三十両色をた出し柳系そ個ひおき能んま
 すと是が遠入てありましとた扱してんまはと
 けまふのせ家のゆ先祖のゆあされてはるあされ
 こものこえまはぶしつけあざらる佛像とゆ貴
 拂いあざらると中は後の中あはは後祖ゆ自堂
 ゆと陰あざらるましとあまのゆをた各
 だんくとなを尋ねましとあまのゆをた各
 私もあらとばあらゆなりまはらうとまはらうとばは返し

中まのゆあされませとあまのゆをた各とたぐと押
 ありと後祖ゆの通り定めて先祖の入てありとゆと
 ありまはがゆとて一旦貴拂とゆものゆ。私ぐ更
 くるあざらゆなりまはんと法前とゆはゆとゆは
 天道とゆはゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
 ゆ前ゆゆはゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
 ませんゆゆもゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
 ゆゆゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
 心あらゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
 紋しません早見ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

の身あれバ他人の身も亦渡しては夫の管ひごころと
 同しやう小麻揉よとてやうくと成しませれば死
 ぬるやも何となく心の結るやうふなしませればど
 ろも流せつの人があつてはとてをたしあさるん
 そのこ目ざらうおひつてありやうとて新あちぬれて
 と落情の老々文と世の中あつてられる人もあつく
 細く成て居るまゝとて永の世とらるる中あち
 たのやうな流切ふ心結の心あつてはつとてゆるも
 りもあちや極ふ心方へ心結ひやては成すすまは
 心の結る事へ心結りませんけとては結のこころと

拂ふてやるとあはしめしめし心結うでは心結りませよ
 がぶぶそ物文心結ひ下とてませすればあちやふな
 まはしと何うつ心の結を結あつたあちとてえせま
 うらふもあちてえせまらるふ何うとてあちたは業結
 結らるもあちそのやうよあちられますあちたは業結
 おて居てもよいととんとていあちも承知しませ
 ちとていられる通り物文用ひて折くは心回向も致
 ませよ必承せまらる致ませんは心おくおひしめせ
 随分心結人の心結身は大事ふあされませ又折を
 あつては心結ませよとてあちたは業結とて歸し

